

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4291100016
法人名	株式会社 ケアサービス・久
事業所名	グループホーム 夕陽の丘
所在地	長崎県西彼杵郡長与町岡郷字引地1669-1 (電話) 095-813-4385
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成19年 9月 21日

【情報提供票より】 (平成19年8月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 11月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 5人, 非常勤5人, 常勤換算6.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての ~1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	250 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要 (8月 17日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 84 歳	最低	78 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長崎百合野病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「利用者が中心」という理念は、毎日のケアの場面で、繰り返し管理者から職員に伝えられ、職員も理解している。「利用者の話をよく聞く」「決して叱らない」という姿勢で利用者と接している。また、おむつをはずす取り組みに力を入れており、実際におむつが必要でなくなった利用者がある事は高く評価できる。食事の面では、1日20品目を目標にしている。食材も吟味し、手作りの暖かみのある調理を心がけている。介護記録他全ての書類の記録は細くなくされており、書類の整理整頓、ファイリングが行き届いている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	初回のためなし
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ケアマネージャーを中心に取組んでいるが、自己評価票を全員で作成するまでには至っていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	長与町地域包括支援センター、地域住民の代表、利用者の家族、ホーム側からは管理者、施設長、ケアマネージャーを交え実施している。議題は、入居状況、行事の報告、家族会の内容報告、施設内消防設備及び訓練報告等である。これまでは報告が主になっているが、今後は会議で出された様々な意見を活かした取り組みに期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会は、3ヶ月に一度位の頻度で、開催しており、報告書も作成されている。内容は、行事の予定報告、消防設備について、新人の職員の紹介について等である。その中で家族から出された要望については、積極的に取り入れて運営面で生かしている。例えば、行事予定をホーム内に掲載する、新人職員のプロフィールを掲示する等で家族の要望も取り入れている。今後は、ホーム内に家族からの要望を受け付ける「ご意見箱」等を設置し、要望を伝える事ができる機会を増やしていく事を期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	平成18年11月に開設され日は浅いが、地域住民とのコミュニケーションを密に取りたいという努力をしている。清掃活動、七夕祭り、少年すもう大会、小学校の教師の研修を受け入れる等積極的な姿勢は評価できる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	実際の活動においては、地域住民との交流に力を入れ「地域の中でその人らしく生活する事を支えるケア」は実践されているが、理念の中には、その概念が盛り込まれていない。	○	これまでの理念に加えて「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」という基本方針に則ったものである事が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「利用者が常に中心である介護」という理念は管理者より日常のケアの場面において繰り返し伝えられていて職員に浸透している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	設立して間もない為、自治会長、老人会長、消防団を訪問し、地域へとけ込めるように努力している。町内の清掃を始め、少年相撲大会等地域の行事には積極的に参加している。また、時津東小学校の若手教職員社会貢献活動研修を引き受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ケアマネージャーを中心に自己評価を作成し、外部評価の意義についても職員へ説明している。職員全員が自己評価票を作成するといった取り組みには至っていない。	○	今回は、初回の外部評価という事もあり、自己評価をするにあたっては、手探りの状態であった事が伺える。今後は、全員で自己評価に取り組む姿勢を期待したい。

グループホーム 夕陽の丘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回の頻度で開催されており、行事の実施報告、予定報告を始め、消防設備についての説明等ホームを知っていただく努力をしている。議事録も作成している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に一度「長与町ケア連絡会」に参加している。これは在宅介護事業所が集まって情報交換をする会である。これを通じて長与町役場の職員とは密に連絡を取り合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月ホーム独自の新聞を発行している。家族がホームを訪問された際には、直接利用者の様子をこまめに報告している。金銭管理についても個別の袋を作り、出納帳も作成し、家族へ報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けて、要望を聞き取っている。これまで、「行事予定を掲示してほしい。」「職員の顔と名前が一致しない」等の意見があり、その都度改善している。また、「苦情受付票」のファイルはあるがまだ実績はない。	○	ホーム内にご意見箱等を設置し、家族の意見を反映しやすいような取り組みを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今までに職員の退職はなく、担当制も設けておらず、全ての職員が全ての利用者の状態を把握するという方針でケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県からの研修には参加するようにしている。また、月1回のケア会議で研修報告は発表するようにしているが口頭のみであり、文書での報告はされていない。	○	研修に参加した際の報告書を作成し、ケア会議の資料として配付するなどして全職員が情報の共有化ができるような仕組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「長与町ケア連絡会議」に参加し、他事業所の意見を日頃のケアに生かしている。また、他事業所からの見学も相互に受け入れており、サービスの質の向上に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者のご自宅へ直接伺いそれまでの生活歴他を聞き取っている。入居するまでに体験入所を実施しており、その様子を見てケアの方針を決めている。見学も随時受け入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「利用者を決してしからない。」という理念が職員にも浸透しており、聞き役に徹するという姿勢を第一に接している。入居する際の聞き取りによって得意分野の把握はできており、畑仕事、裁縫等手伝ってもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分の家にいるように暮らして欲しいというホーム側の配慮がある。入居する前の聞き取りによって、それまでの生活歴、習慣、関心事、苦手な事は「暮らし方ノート」へ記載されており、ケアへ活かされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族会での意見を参考にして本人の希望を反映させるようにしている。また、月1回のケア会議では全員で協議して介護計画の見直しに活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にケア会議を開催し、介護計画を見直している。また、変化が起きた場合等の方針はその都度家族と相談し、決定している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の要望を取り入れて、買い物や花見等のドライブへ出掛けている。また、提携医療機関からの週2回の往診の際には意見を出し合って、アドバイスをいただいている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への通院もホームで支援している。この他提携医療機関より週2回の往診を受けている。医師との時間外の連絡も密に取られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本的にはターミナルケアは受け入れておらず、重度化した場合や終末期のあり方に対する「意志確認書」「同意書」等の文書は取り交わしてはいない。ただし、これまでに一例だけ医療機関と密に連絡を取り合いながら重度化した利用者の支援を行ったことがある。	○	重度化した場合や、終末期の対応について、日頃より本人はもちろん、医療機関、家族、ホーム側との方針の統一を図っていく事が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人情報の取り扱いについては、守秘義務がある事を職員に徹底している。職員は利用者に対して、穏やかで優しい態度で接している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を第一に、自分の家だと思って生活して頂ける様支援している。外出の希望もできるだけ実現できるよう配慮している。利用者のペースを重んじ、例えば、入浴も無理強いはしない等の配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際には、職員も間に入り、同じメニューをいただきながら、さりげなく食事の介助をしている。アレルギーにも配慮して食材を選んでいる。献立は特に作成しておらず、その日に食べたいものを利用者へ聞いて作っている。また洗い物を手伝ってくれる利用者もいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は、週3回である。時間は利用者本位であり、午後1時からいつでも可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの裏手の畑でジャガイモを作っており、農作業に精を出す人もいる。収穫したジャガイモは献立に取り入れている。毎日歌、体操を取り入れており、評価時も職員と一っしょに歌う声がりびんに響いていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を聞き、買い物や近郊へのドライブへ出掛けている。買い物に行った際の写真を撮って家族にお見せしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	部屋は勿論、玄関にも鍵はかけていない。只、玄関にセンサーを取り付けチャイムが鳴るようにしている。この事で利用者の行動を把握し、鍵をかけないケアが実現できている。		

グループホーム 夕陽の丘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	平成19年5月に火災訓練を行っている。「火災対応訓練記録」を確認した。電話の近くには緊急時のマニュアルが備え付けられている。また、消化器の訓練は全員が受講している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面では、献立表はないが、1日20品目を目標にしており、その日の食材は、全て記録している。食事の摂取量は、個別に記録し把握できている。お茶は24時間いつでも飲むように常備して、適切に水分確保ができるよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂からは、眼下に広がる大村湾を一望でき、夕陽が美しい恵まれた環境にある。手作りの物が窓辺に飾られており、暖かい印象を受けた。食堂のテーブルの横にはソファがあり、食事の後直ぐに腰掛けくつろぐ事ができる。浴室は様々な入浴剤を使ってリラックスできるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものは、何でも持ち込んでよいと家族へも伝えている。行事の写真や家族の写真をを壁に飾っており、工夫している。中にはやや寂しい印象を受けた部屋もあった。	○	家族の協力も得てできるだけ「家庭にいるような」雰囲気を作っていくような取り組みを今後期待したい。

※ は、重点項目。